

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あがたの里
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	長崎県対馬市上県町佐須奈乙462番地2
記入者名 （管理者）	若松 久
記入日	平成19年12月5日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者には個人差はあるが、地域生活での継続支援と、ホームと地域の関係を含め、理念づくりの強化につとめている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員には、ホーム運営の理念に基づき日々研鑽につとめ、サービスの中で、質の向上、職員間の意識付けはされている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の住民に対しては、設置後、町役場の広報紙で住民はのホームの運営方針理念等を合わせて、PRもして頂き、民生委員協議会への説明会、更には施設見学等、折に触れ繰り返し伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に、挨拶や会話を交わし、お隣さんから珍しいものを頂くなど、家族のような交際をしている。管理者は元居住時の隣家でもあり引き続き親交は深い。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者である私が一番良く熟知している。自治会、老人会、地域活動行事への参加は、入居者の人権尊重からして非常に難しいので、皆さんと相談してみたい。	○ 認知症の方々の参加については、家族の承諾を得る必要もあると思う。自ら訴える能力や相手の言っていることの理解等々、大変難しいことであり、今後の課題である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	気持ちや配慮は十分である。利用者への日常支援のみで地域の高齢者等の暮らしについては話し合いには取り組んでいない。	○	認知症の支援、介護、その他諸々の問題で、一事業者で取り組むことは難しい。今後、関係方面の協力を得て取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で外部評価の結果を公表し、目的達成と評価を活し、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には出来る限りの情報を提供するようにしている。	○	委員さんの意見があまりないので、今後は何でも良いので意見を出していただくよう強く要望していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は難しく、なかなか情報の共有協力は図れていない。	○	事業所の考え方も知ってもらい、情報を共有しながら、問題解決に向け努力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業は、入居者にとって良い制度であり、制度そのことを理解し、すでに活用している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待についての理解と、人権尊重の精神から徹底した取り組みを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	設問の通り実行している。入居を希望される方、家族の皆さんは事前に色々とお尋ねがあり、親切、丁寧に十分説得し納得してもらっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の仕事をしていた時なら、苦情や不満はつきものであり、職員へは常に他人の意見を取り入れ、運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1、健康管理については、介護予防の関係から看護師が当り、病院への定期受診を行っている。 2、金銭管理は権利擁護事業(社協)に依頼。 3、職員移動等は市へ報告、合わせて家族へも報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今日まで、苦情等は受けたことがない。家族への連絡その他必要な事項についても密にしている。ご希望等があれば何でも申し付け下さいとも言っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の会議及びミーティング等で職員の希望を求め、管理者として運営に参加してもらっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の勤務体勢については、法定数の確保、最少限度の勤務の調整対応は出来ていると思う。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設問の通りすべてに配慮しながら、万全の体勢をとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、勤務年数や職責に応じて研修に参加させ、多くの職員が研修の中味を知るため、復命書の作成発表を行ない、知識を広げてもらっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者同士は常に同一步調で話し合いは持っている。	○	今後の問題として、サービスの質の向上のため取り組んでみたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者を除き、法定員数の確保できている(3対1)職員同士も、声を掛けながら、勤務中にも気分転換できている。休憩室の確保、後は目に見えない人間関係であるが、今のところ良好である。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	小規模な施設であるが、職員個々の努力や実績、勤務状況の把握は常に出来ている。適材適所で責任をもってもらい、研修会等へも参加してもらい、資格の取得等へも努力してもらう様に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の意向を良く聞き、本人の長所、短所を見るため暫く本人の行動等を良く知る必要がある担当者を含め、コミュニケーション作りを徹しお互いに信頼で築き、よく聴く機会をつくるよう努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と施設の信頼関係が大切である。求められることについては、安心の出来る対応が必要で、初期は管理者が対応に当り、全幅の信頼で、双方の絆を作るように努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応＝管理者、利用者に安心して利用いただけるかを確認してもらうことが大切である。諸々の落度のない説得と、サービスの中味等も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人が納得して、サービスが受けられるかを確かめるため、施設内の見学等、すでに利用者がどのような生活、環境にあるかを確かめ工夫されているか確かめてもらい、家庭で馴染の物等も持ち込まれているなど、工夫したサービス環境作りにつとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に、テレビを見たり、カラオケ、音楽鑑賞、時にはトランプ、花札遊びなどをしながら、楽しんでいる場面が多く見られている。支えあう関係を築くことが介護面で必要であり、今後も支援を続けていく。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	正直に申しますと、施設が家族に変わり支援をするわけで、家族へは利用者の状況の伝達をするなど、信頼関係を大切にしようにつとめている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設では入居者と家族との絆を大切に見守りながら支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	設間についてですが、利用者にとって介護を受けるのが初めてであり、すべてに馴染の関係が途切れないよう、配慮しながら支援につとめている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	介護にとって一番重要な点は、介護職員が、一人一人の長所・短所を把握し、利用者同士がトラブルがないよう、公平に取り扱うよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	設問の通り、支援している。絆を大切にし親交が続くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、動きなどを観察しながら本人の思いや希望等をくみ取り、場合によっては家族に来ていただき安心と情報の共有を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に色々と情報などを得て、本人や家族と面談も行い、馴染みややすい暮らし方へ介護職員も把握につとめている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のミーティング等で、生活の記録や暮らし方の様子等を報告、皆で情報を共有しながら把握の実態に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ADLや精神的な面を含め本人の自立を目指したケアプランを作成し、毎日の記録の中に綴じ込みいつでも見れるようにしている。 ・食事制限が必要な場合はその都度看護師が助言し、又は家族にも協力を求めている。(差し入れ等) ・意思表示ができない入所者が多いため施設側の判断で対応している。	○	介護度や本人の希望に全て対応できることは困難ではあるが、より良い暮らしが出来るような援助を職員一人ひとりが認識し実施していけるような体勢づくりにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・期間での見直しは実施し、突発的な事が生じた時は申し送りでカンファレンス記録し、介護員への徹底を計っている。 ・本人には理解できる言葉で話をしているが、家族や関係者との話し合いは充分とは言えない。	○	家族と本人又は関係者等との協議が殆んど出来ていないため、そのような機会を作り、施設での生活が充分なものであるような環境を提供していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルや熱計表を用意し、食事や排泄等、心身面及び日々の生活の様子や出来事等記録しているが、プランに対して実践、結果が出るように今後、各人の情報を共有しながら記録確認を徹底する。	○	全ての職員が情報を共有できるように、再確認の徹底に努め、プランに沿っての実践の結果、気づいた点の記録を行う様にしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院との医療連携体制をとっている。また本人の家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人が安心して生き生きとした暮らしを続けられるように、周辺の方々、関係行政機関、諸団体の協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との話し合いは持ったことがない。	○	今後必要に応じて、トップ同士の話しを持ち、お互いが理解しながら、実現へ向けて努力したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はほとんど出来てない。		運営推進会議に参加して頂くなど関係強化に努めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々、協力医療機関、上対馬病院へかかりつけ医として受診や通院は希望に応じて対応している。家族への連絡を取りながら、当ホームが協力して通院介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・かかりつけの病院に精神科が常勤していないため内科医に受診(定期的)し、助言を受け必要な時には精神科を受診している。 ・定期的には専門医に受診していない。	○	半年に一回等精神科を受診できるようにした方がいいと思うが、現在のシステムで大きな問題はないため現状維持で行きたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護師が常勤しているため日常業務や緊急時の対応は指導している。毎日バイタルサインはチェックし異常の発見はでき、健康管理もできている。	○	緊急時の対応(窒息、頭部打撲、骨折の疑い、意識障害等)はシミュレーションしているが回数を増やして訓練を繰り返していかなければならない。夜間の対応等もスムーズに出来るよう指導を強化していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院したら主治医や病棟師長と連絡を取り合い情報交換はしている。退院の連絡があった時の受け入れ態勢は出来ている。	○	医療側との連絡や情報交換は出来ているが、入院中の利用者への面会が少ないため、精神的援助の目的でも頻回に面会できるようにしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した時点では救急処置等の話は家族と医師を含めているが、日頃から早い段階での話し合いは不十分である。 ・本人を含めての話し合いは殆んどやっていない。	○	終末期のあり方については高齢でもあり、理解力の問題もあり難しい問題ではあるが少なくとも家族等とは早い時期に話し合っておく必要はあると思うため、実施していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・動けなくなっても利用者が望めば又施設での介護が可能であれば主治医とも相談しながら施設での暮らしを支援している。 ・経管栄養や持続点滴等の対応はできない。 ・他職種(医療・保健)とチームを組んでの検討会議は実施していない。	○	今後は経管栄養や気管切開による吸引、褥創のケア等がグループホームでも要求されてくるとされるため病院や老健施設等ともチームを組んで検討会や情報交換が必要になってくるため、その方向で検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから入院のまま退所はあるが、他施設や在宅へ移る事は殆んどなく事例がない。	○	別の場所の居住する時は情報提供や本人や家族の利点となれるよう協力体制はとっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	尚、季節の変わり目に衣類の不足分については皆と相談の上、購入支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	認知症の方の「おやつ」に変化があることは、心理的に問題をつくる原因になりかねない。神経の半分以上は認知症の方の食に対する敏感さは言葉で言い現すことの出来ないことがあるので、設間には多少理解できない点もある。現場の対応で支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人に合った環境で排泄の支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者全員が何らかのかたちで、入浴については全介助を必要としているので、週2回というのは、特養にならない実施してきた。	○	入浴に対し、今後回数を増やすなど、利用者の希望に添う様改善していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えようと努めている。また、一人ひとりの体調や希望に配慮して休息も取りながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一部に坐ったままでの手伝いの出来る方もごく数人居られるが、他の方は一人での行動は不可能であり危険が伴う恐れがある。すべて行動には介助、介護を必要とするので、個々に合った支援で気晴らしや楽しみごとを支援している。(花札、輪投げ遊び等)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のほとんどが、金銭感覚が衰え、家族と施設で必要最小限度の買い物は支援している。小遣いの一部は施設で預かり、金銭出納簿を作成して複数処理している。他は社協の地域福祉権利擁護事業にお願いしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や、気分に応じて、季節を肌で感じてもらいたい心身の活性につとめていきたいが、ごく一部の方で、室内での散歩等についても消極的である。	○	今後、皆さんで話しながら、天候の良い時の庭先での日光浴散歩、更にドライブ等に取り組んで支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気分転換の為め、季節の花見、好天が続く時は、介護職員随行で年数回、バスハイク等にでかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族の絆を大切にするため、電話の利用、その他伝言等、出来る限りのお世話をして支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	当ホームは、夜9時までにはすべて開放してます。用件その他何でも申し出て下さい。一切拒むことのないようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法令の定めにより、利用者の人権尊重の精神からして、いかなる場合も身体拘束をしないよう厳しく伝達、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設問の通り、実行している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	管理者である私くし自ら、朝の挨拶を兼ね居室まわり、元気な顔であるかを確認している。職員は昼夜とわず定時に居室を巡回したりして入居者の確認はしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活面に配慮し、昔馴染の物等は別とし、その他居室を広く使用するため、出来るだけ最少限度の物だけ持ち込み、危険な物の持ち込みのないよう事前に事故防止につとめる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	設問の通り配慮に配慮をかさね、事故防止に万全の態勢を取っている。	○	利用者の喫煙は、健康管理面を考慮し時間を定め一定の場所で行っている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	過去に入居者の急変は、職員は経験済みであり、昼夜を問わず、管理者、看護師の指導でいざ有事の際は消防署の救急隊に依頼し、万全の体勢をとっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水火災の場合は、(平成18年度に1度経験)職員への通報経路も定め準備周到、いざ有事の際は消防署、警察署の協力と、地区消防団の協力体勢は出来ている。過去に2度も経験しているので万全である。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族が訪問され、入居者の近況報告等は必ず行っている。抑圧感とか威圧感という言葉は使用したくないし、想像以上に自由に暮らしている実態を見るとわかるような姿勢で望んでいるし、家庭も安心されていると思う。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員も入居者の動向を常に観察しているので、体調の変化や異変については、情報を共有し対応は万全である。(当ホームには、看護師もいる)		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員に安全の為め、必ず薬の投与については実施している。医療機関もそれを望んでいる。その外については、すでに病院の指導、必要に際し、病院連行、服薬、症状、変化の確認は万全である。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の対応も万全であり、常に大・小便については記録による確認、日勤、夜勤者が情報を共有し、個々に注意、看護師の指導、助言を受けながら、万全の体勢で支援する。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの実施について、毎食後必ず実施している。看護師を雇用した際、当ホームの口腔ケアについて、感心したぐらいである。管理者もそう感じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲のない人に食べれそうなものを本人と相談し提供している。飲み物の要求をしない人は、定期的に手渡しで飲んでもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前食後の手洗いの励行を室内にかかげている。感染症予防について、(常勤の看護師の)指導、助言も受けながら、予防対策に取り組んでいるし、職員も研修会へ参加させる等している。すでに予防接種等も全員受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員は清潔で臭気のない調理場を目指して常に心掛けている。食材は毎日午前中に購入するよう指導している。冷蔵庫に買いだめしないで、新鮮な物を購入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に入って見て、違和感のない様に、植木等を置いたり、気軽に出入り出来るよう工夫し、常に心掛けて対応している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々、民家を増改築したホームで、廊下が概設のもので多少狭隘であるが工夫して活用、居間、食堂等を利用し、皆さんの溜まり場として、テレビ等をみたり、皆さんの遊び場として工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが個室ですので特にトラブルもなく、大広間でソファーを利用したりして、皆仲良く過ごしている。介護員が必ず1名はついている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが、使い慣れたものを最少限度持ってきて頂き、安心して楽しんでもらうよう配慮を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	設問の通り、配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すり等や浴室なども安全確保と自立の出来る環境に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状況に合わせて、出来るだけの環境整備に努め、失敗が生じた場合は、職員同士で話し合い、本人の不安材料とならないよう工夫して支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	設問とは多少建物の構造が異なるため、外庭へ皆さんで日向ぼっことか(個人差は多少あるが、)適当に活動が出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の
		②利用者の2/3くらいの
		③利用者の1/3くらいの
		④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある
		②数日に1回程度ある
		③たまにある
		④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		○ ③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と
		②家族の2/3くらいと
		③家族の1/3くらいと
		④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)